

# 『青森市にて全国大会』



平成2年6月15日  
第2号

題字 大館市宗福寺住職 加藤信三老師御染筆  
発行所 北秋田郡森吉町本城 浄福寺  
秋田県梅花流師範会事務局  
発行者 亀谷健樹  
編集者 (広報部) 柴田弘一・保坂春聴  
印刷所 秋田県北秋田郡森吉町米内沢 武石印刷 ☎0186-72-3319



サフラン

今年度の全国大会は、去る五月三十日・三十一日の両日に亘り、青森県営スケート場を会場に、全国より一万六千人が参加して盛大に開催されました。

秋田県からは一、〇六九名もの方々が参加され、第一日目の三十日、第十八と十九番目の登壇で、A班が「高祖承陽大師誕生御和讃」、B班が「太祖常済大師誕生御和讃」を、朗々と立派に奉詠、会場の大拍手に皆々感激一入の様子でありました。

今年「修証義」公布百周年記念奉讃法要も一部式典に組み入れられ、会場内には、シンセサイザーによる曲が流れて荘厳な雰囲気をかもし出す中、しばし別世界に居る心地で式典の進行を見守り、共に「三宝御和讃」「紫雲」(一仏両祖)、「修証義御和讃」「聖号」を一同で奉詠。胸に沁み入る感動の法要式典でありました。

此の度は、大会役員として、秋田県内より特派師範四名をはじめ、他に十五名の師範が任命を受け、二日間各部所にて大いに活躍され、又お骨おりをいただきました。

登壇奉詠が全て終了して間もなく、さすが津軽の地、アトラクションは「津軽三味線」の力強い響きとどこか哀調を帯びた演奏は、聞く人をして感動させずには置かないものがありました。又、地元の方々の心温まる気配りが方々に見受けられ、只々感謝するのみでありました。

閉会式に移り、伝道部長より「来年の全国大会は四国高知にて、又お会い致しましょう」との力強い閉会のことば。一同で「同行御和讃」を奉詠し、共に詠讃歌に親しんで来たことが本当に喜びとして感じられ、更に精進することを胆に命じて会場を後にしました。

参加された方々、又大会役員の方々、本当におつかれ様でした。ご苦労様でした。残念乍ら今回参加出来なかった方々も次回はご一緒致しましょう。

# 一年を振り返って

## 秋田県梅花流師範会

昨年三月二日、秋田市栄太楼旅館を会場に秋田県梅花流師範会の役員会と総会を開催、平成元年度の事業が決められた。

会員は九十ヶ寺より師範・詠範を合わせて百四十名。より一層の活動を目指すため、機構改革を行い、役員の人数を増やして部門制を採用し、それぞれの担当責任者をもって、各種事業を推進することになった。

### ◎宗侶、寺族の研修会

県南、中央、それに県北は各教区毎に独自の研修会があり、それぞれに詠道に精進しております。師範会主催の研修会としては、次の通りであります。

七月十三日、秋田市文化会館を会場にして山形県の藤原知雄特派師範を講師に、研修会を開催、四十五名の参加者が熱心に受講され研鑽を積みました。

また、十月十日～十一日の両日は、秋田温泉「さとみ」を会場に、正伝師範の永田正道大先生を講師にお迎えしての研修会が開催されました。(創刊号で紹介済み)

### ◎機関紙「同行」発行

待望の創刊号が十一月一日付にて発行することが出来ました。柴田弘一副会長が編集責任者として、原稿の依頼から紙面の構成、数

回にわたる校正まで御苦労されたお蔭です。発行部数は四五〇部、県内の曹洞宗全寺院と梅花講師に配布されました。

### ◎講員一泊研修会

十一月二十日～二十一日、二ツ井町梅林寺様を会場に参加者九十九名。

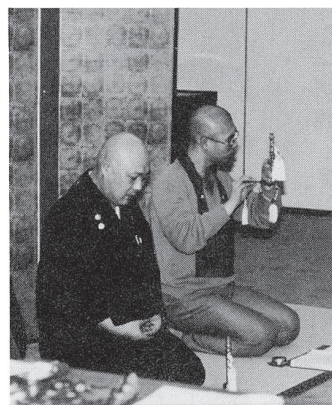
十一月二十七日～二十八日には、合川町太平寺様を会場に参加者九十二名。

両会場共、教階により五の分科会に分かれてそれぞれの講師より指導を受けました。この研修会では、お唱えだけではなく講話や坐禅、それに朝昼晩の勤行、精進料理による食事作法などもあり、「梅花講禅のつどい」と



講員一泊研修会  
於 太平寺

## 迷演技？



検定委員研修会

呼べるような内容のある二日間でした。

### ◎検定委員研修会

平成二年一月十六日、岩城町の「秋田厚生年金休暇センター」を会場にして検定委員の研修会を開催、先づ模擬検定が行われた。ここでは三人の委員が受検者に扮して合格・不合格の際どい所を演じ、他の委員がそれを採点して、検定方法について研修を致しました。

その後、佐々木禅老師、近藤俊貞師の両師範より問題提起してもらい、検定についての諸問題について意見交換が行われました。

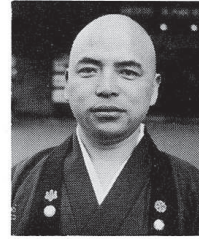
年々上級の受検者が増えてまいりました。「いかにしたら普段の練習の成果を見ることが出来るのか」「正しいお唱えも大切だが、それよりも正しい信心がもっと大切ではないか」など、これらの問題に如何に対処するかで白熱の論議が戦わされました。

以上、昨年度の主な事業を取り上げて事務報告に代えます。

尚、奉詠大会と検定会は、創刊号にて報告済みですので割愛しました。

事務局長 奥山 芳寿

# 特派一年生の 梅花行脚



大館市  
本宮寺住職  
佐藤 廣俊

一昨年、特派師範の拝命を戴きまして「千葉県・神奈川県第一・茨城県」そして昨年は「新潟県第一・第二」の各宗務所管内を巡回させて戴きました。

特派一年生の私は、「威儀即仏法、作法是宗旨」の宗義を心に誓い、「一期一会」の仏縁を大切にしながら、無我夢中で巡回させて

戴きました。

どの会場に於いても、講員の皆様の熱い視線が、まるで検定委員の顔に見えてきてしまい、自分が検定されているような気分になってしまいました。受講者の期待と不安の眼差しを感じながら、講習する私も受講される講員の皆様方も、なんとなく緊張した中でのスartetでした。

講習が進み、一時間位過ぎた頃より親しみの笑顔に変わってゆきます。その時がお互いの心が一つになる瞬間でもあり、講習内容を充実させる大切な時であるということを感じました。

毎日の講習が緊張の連続でしたが、「足が不自由で正座ができない・耳が遠くて良く聞こえなり・目が良く見えないけれど、梅花をお唱えするのが好きで好きで」とか、「私た

ちは年一度の特派講習会が唯一の講習会」等々……。わずか一日の短い講習時間の中ではあるが、「今日の講習とても良かった」「来年もまた来て教えて下さい」とお世辞でも喜んでくれた受講者の人情篤き心に接し、他では味わうことのできない尊い体験をさせていただきました。

岩手の全国奉詠大会で「詠讚歌をお唱えするお一人お一人が如来様であります」というありがたいお言葉をお示し下さいます、合掌拝されていた丹羽禅師様のお姿に感激したことを思い出し、特派師範の責任の重大さをあらためて痛感した次第です。

これを踏み台として梅花の花の蕾を一輪、一輪、開花できるように一層精進努力してまいります。

## 検定科目

- 1. 教導(2曲) 「三宝」「正法」
- 2. 権正教導(2曲) 「聖号」「修証義」
- 3. 正教導(4曲) 「浄心」「紫雲」
- 4. 権中教導(6曲) 「梅花」「誕生」
- 5. 中教導(6曲) 「溪声」「菩提」
- 6. 権大教導(8曲) 「入寂」「讚仰」「法灯」  
「無常」「月影」
- 7. 大教導(15曲) 「花祭」「歡喜」「成道」  
「明星」「涅槃」「不滅」  
「観音」「慈光」「浄光」  
「地藏」「慈念」「追弔」  
「追善」「妙鐘」

## 補命恩金+宗務所手数料(2割)

一般		
教導	3,000円	+ 600円
権正教導	4,500円	+ 900円
正教導	5,500円	+ 1,100円
権中教導	7,000円	+ 1,400円
中教導	9,000円	+ 1,800円
権大教導	12,000円	+ 2,400円
大教導	15,000円	+ 3,000円
3級教範	25,000円	+ 5,000円
2級教範	40,000円	+ 8,000円
1級教範	60,000円	+ 12,000円
正流教範	100,000円	+ 20,000円
寺族		
補教	3,000円	+ 600円
詠範補	5,000円	+ 1,000円
5級詠範	7,000円	+ 1,400円
4級詠範	15,000円	+ 3,000円
3級詠範	25,000円	+ 5,000円
2級詠範	40,000円	+ 8,000円
1級詠範	60,000円	+ 12,000円
正流詠範	100,000円	+ 20,000円
僧侶		
助教	4,000円	+ 800円
師範補	6,000円	+ 1,200円
5級師範	10,000円	+ 2,000円
4級師範	20,000円	+ 4,000円
3級師範	30,000円	+ 6,000円
2級師範	50,000円	+ 10,000円
1級師範	70,000円	+ 14,000円
正伝師範	150,000円	+ 30,000円

# シリーズ

## おらほの梅花講

そうせん  
相川寺じ

所 在 河辺郡雄和町相川(第十二教区)  
設 立 昭和三十六年四月一日  
講 長 丹生純雄  
講員数 七十八名

昭和三十六年、相川寺支部として発足した  
当時は、講員数五十名程、法具も教典もなく  
全くの手探りの様な一、二年だった事を記憶  
しております。三十年近く経った今、講員は  
徐々に世代交替しながらも七十八名程に増え、  
梅花着物、梅花服、法具等を揃え、法要等に  
参席奉詠する様は誠に頼もしく、感慨一人の  
ものがあります。

講長も私も、梅花流の符ひとつ知らぬ所か  
ら始まりました。その基礎となったものは、  
県南和教会の講習の中で教わったものでした。  
その二泊三日で覚えた一つ一つが、今も息づ  
いているし、講員との懐かしい思い出にもなっ  
ております。

正月は観音講、三月は涅槃会、彼岸会、八  
月は施食会、九月の彼岸会、師走は成道会等  
に参席奉詠。特に成道会は奉詠後、講員の親



昨年の奉詠大会での登壇奉詠

睦と忘年を兼ねての昼食会が催されます。

又、講員やその家族の不幸に際しては、奉  
詠供養を行い、その他の諸行事にも積極的に  
参加しております。

毎年の奉詠大会、検定会には必ず出席、昨  
年は教導、中教導等二十七名が受検、合格し  
ました。大会、検定へ向けての講員のひたむ  
きな努力は以前と少しも変わらなかったが、

講長が本山でのお役を戴き不在のため、副任  
職と私がおぼつかない代りをする事となって  
大いに狼狽した。しかし副任職の指導でどう  
にか奉詠大会へ参加登壇する事が出来ました。  
その日私は登壇せずに初めて下で聞いており  
ましたが、何故か涙が溢れて仕方がありません  
でした。透明に会場を流れる旋律と詠法は、  
まぎれもなく「おらほの梅花講」だったし、  
その鈴鉦は深く身にしみてなんと有難かった  
ことか。

寺族としての心得の薄い私にとって、梅花  
講は大きな支えとなった。それは、私にもや  
れるものがある、と言う嬉しさでもあったが、  
何よりも檀家さんとの大切な繋がり糸口が  
見えた事だった。今は、講員の方々の励まし  
を受け、講長の不在をどうにか過ごしてい  
られる。幸せな事と思います。 合掌

紹介者・寺族 丹生ちか

### 詠讚歌と尺八の出会い

## 心のハーモニー (四)

十一月十日(土)

午後一時三十分 開演

本荘市文化会館大ホール

入場料 一、〇〇〇円

事務局 由利郡西目町沼田 円通寺

☎〇一八四(三三三) 三〇四九

# 天昌寺

所在 南秋田郡五城目町富津内富田  
 字雷128番(第二教区)  
 設立 昭和三十五年三月  
 講長 小澤孝道(創立者・小澤活全)  
 講員数 三十五名

朝まだき梅花の里の御寺には

太鼓響きて勤行尊し

私達梅花の里の天昌寺は、夜明けと共に打ちならす方丈様の太鼓の音で一日を迎えます。

昭和三十五年三月、梅花講を発足させて下さいました方丈様には、深く感謝いたしております。又その当時の講員の方々には、どんなにか御苦労なされたことでしょう、皆さんの御努力には深く敬服しております。

それから三十年、今も方丈様の御指導のもとに講員一同、月二回の例会には休むことなく精進いたしております。

春・秋のお彼岸、四月のお涅槃会、その他お寺の行事や、講員はじめ村人の御不幸の際にも奉詠させていただいております。

又、近くのお寺の講習会にもかかす事なく参加させていただいております。

全国大会には有志の方だけですが、今年で五回参加することになります。

県大会には毎年参加いたしております。時には失敗もありましたが、大会の喜びと、



昭和63年の奉詠大会での登壇奉詠

感激、色々な人達との出会等、梅花講員であることをつくづく幸せと思っております。

今年四月十七日、方丈様の退董式が行なわれました。同行御和讃でお迎えし、厳かな儀式の後、正法御和讃を奉詠させていただきました。大開静と共に、堂を去る方丈様の御姿には、感無量なものでありました。

今後共、益々講員の育成に御尽力下さいませよう御願いたします。

私と梅花との出会いは、亡き母の野辺の送りでした。その時奉詠された御詠歌の有難さに心を引かれたのが初めてでした。

それから数年後、檀家でもない私を、方丈様をはじめ講員の皆様が、温くお仲間に入れ

## 「修証義」公布百周年記念 秋田県梅花流奉詠大会

期日 九月二日(日)  
 会場 天王町総合体育館  
 受付 八時三〇分より  
 開会式 九時三〇分  
 参加費 一人 一、五〇〇円

### 特派講習会

特派師範・新潟県 山田 賢 隆師範

七月 八日	由利町	慶祥寺
〃 九日	大内町	興昌寺
〃 十日	仁賀保町	高昌寺
〃 十一日	秋田市	文化会館
〃 十二日	男鹿市	清松寺
〃 十三日	鷹巣町	宝勝寺
〃 十四日	比内町	寿仙寺
〃 十五日	八竜町	鳳来院
〃 十六日	二ツ井町	梅林寺
〃 十七日	鹿角市	吉祥院
〃 二十一日	田沢湖町	東源寺
〃 二十二日	協和町	福城寺
〃 二十三日	森吉町	福寿寺
〃 二十四日	秋田市	東泉寺
〃 二十五日	秋田市	天龍寺

て下さいました。感謝でいっぱいです。命ある限り梅花に励み、心豊かな余生をおくりたいものと念じております。

紹介者・講員 石井八千代 合掌

梅花講が梅花流正法教会として呱呱の声を上げてからも三十八年、秋田に梅花の種が蒔かれてからも三十六年になりますね。

昭和二十九年大館市の宗福寺様で西国三十三番ジオラマ開帳での野村師範の奉詠を耳にして、感銘を受けた者が相語らつて、月一回の練習会が始まり、同時に講の設置も始まりそれらの指導と練習で梅花で夜が明け梅花で日が暮れる毎日でした。

第一回の奉詠大会は、昭和三十一年に鷹巣町の宝勝寺様を会場にして、教区事業として全てが暗中模索の中で行われました。以後、宗福寺様、本堂落慶記念として鹿角市毛馬内の仁叟寺様、大館市釈迦内の実相寺様、鷹巣町七日市の龍泉寺様、大館市真中の源守院様、鷹巣町坊沢の永安寺様と毎年開かれました。

仁叟寺会場の時には、中央から野村師範の臨席を頂き錦上花を添えて頂きました。この間に参加講員も多くなり嬉しい限りでした。昭和三十五年には、全県大会を秋田市の歓喜寺様で開き、テレビやラジオでその模様が報ぜられました。しかし今では、その当時参加した講員さんも多くの方々が鬼籍に入り今昔の感に堪えません。

今は全国大会も地方大会も個人奉詠がありませんが、初めの頃は盛大に行われたものです。三十九年の京都市弥栄会館で開かれた第十六回大会には、秋田県より一名参加で個人

登壇奉詠をしました。話しは前後しますが、全国大会へ秋田県として初参加して団体登壇奉詠したのは第十四回大会の東京文京公会堂でした。

また、今の様に梅花服も無い時でしたので色鮮やかなお揃いのお召物の講中もあり、華やかな光景もありました。

昭和三十六年の十周年記念大会は能代市の長慶寺様を会場に開催しました。その時、龍泉寺の老方丈様が手ずからミシン仕立て白地に赤の縫い取りの横断幕を作り、大会に花を添えられました。

## 秋田の梅花流 (一)

比内町・全応寺住職 佐藤 仁鳳

県大会は、昭和四十六・七年頃から全県一会場で開かれるようになり、第一回は森岳温泉のホテルを会場に一泊二日で開催された。その後、秋田温泉、男鹿温泉と賑やかに開催されたのも楽しい思い出となりました。

男鹿温泉会場の時は、秋田県梅花流の育ての親、山形県酒田市の難波師範にお出でを頂き大会の中で初めて講習と立派な講評を頂いたことを昨日の事のように思い出します。

検定は、講員さんの検定より自分の受検が大変でした。特設検定も地方検定も機会が少なく、本部講習の折東京や永平寺様で受検しました。四級師範は三十三年に弘前の長勝寺

様で龍泉寺の老方丈様と二人で受検しました。当時、地方検定の委員長は四級師範でもつとまりましたので、合格しないと秋田の地方検定を開く事が出来ないので一生懸命でした。秋田県で検定会を開くようになったのは、昭和三十五年頃からです。

講習会も良く開かれました。昭和三十四・六年と三年続けて由利地方の講習会に出ました。二泊三日で中央より大島賢竜師範がお出でになられ、私が補助講師で三宝、正法、修証義和讃の講習を行いました。今思うと強心臓であったなと恥ずかしい気持ちです。しかし大変勉強になりました。

ある講習会でのこぼれ話。講習三日目の朝の一時、あるお婆さん「今朝失敗したで!!」、私、「どうしましたか」。「上手に三宝和讃を

一人で唱えられるようにと思い、今朝早く起きてトーフの機械のスイッチを入れて大きな声で——心の闇を——と唱えていたら、母さんが起きて来て、「お婆ちゃん豆が出来ない——。アツ、唱えることばかり考えて豆を入れるのを忘れていた」と、一同大笑い。トーフ屋の婆さんの話。

次のお婆さんは、陸稲の草を取りながら覚えたり和讃を唱えていたら、終つてよく見ると草も取れていたが陸稲も一緒に抜き取っていたと小声で披露。これも大笑いしたり感心したり無心の業・技・態。?

# いころをよむ (一)

## 「紫雲」一仏両祖について

梅花流の集いで開講式では一仏両祖(紫雲)をお唱え申し上げますが、それは一仏両祖はわが曹洞宗の本尊様であるからです。

一仏とは仏教の開祖・釈迦牟尼仏(お釈迦さま)、両祖とは高祖承陽大師(道元禪師)と太祖常済大師(瑩山禪師)のお二方です。

各々のお寺には開創の因縁によって、観音様や他の如来様等の本尊様がおいになることもありますが、曹洞宗としての本尊様は一仏両祖であります。

お釈迦さまが修行のすえ、坐禅によって開かれたお悟りの心、坐禅の教えが歴代の祖師がたによって受けつがれ、達磨大師さまによって中国へ伝えられました。道元禪師さまは今から七百六十年程前、はるばる中国(当時の宋)へ渡り、達磨大師さまの流れをくんだ如浄禪師さまについて、その教えを習得し、正しく日本へ伝えられました。

さらにその教えを親しく全国へ広める礎を築かれたのが、道元禪師さまから四代目に当たる瑩山禪師さままでした。

現在、欧米を含めて、約一万五千ヶ寺を数え、わが国最大の宗派である曹洞宗ですが、高祖様、太祖様のお徳によって、はじめて成

り立ったのですから、このお二方は宗門の父母にも当るお方ですので、両祖大師と申し上げるのです。

### 大聖釈迦牟尼如来御詠歌

草の庵に寝ても醒めても申すこと

南無釈迦牟尼仏あわれみたまえ

この御詠歌は高祖様のお歌の中の一首です。

高祖様が釈迦牟尼仏に帰依のまことをささげられたお歌であります。「草の庵」は草葺きのささやかなお堂のことです。大意は「私はこのささやかな住まいにこころを澄まして起き臥しておりますが、ねてもさめても南無

釈迦牟尼仏のおとなえを申しつづけております。どうぞ、私をおおいなる、いつくしみの心とあわれみの心で、お助けをお願いします。」

ここで、「申す」というのは、ただ単に口で申すだけではなく、身体で申す、心で申すという、身口意の三業で申すことなのです。

つまり、全身全霊を傾けつくして、信のすがたを言葉の上にも、からだ、行ないの上にも心の思いの上にもあらわしつくすことなのです。私共も、お釈迦様、高祖様になりきって詠唱を申したいものです。

高祖承陽大師御詠歌 作詞 赤松月船老師

うちまかせ心も身をも永平寺

浮世の塵はあとかたもなし

高祖様が開かれた大本山永平寺は、越前(福井県)の奥深い、いわゆる深山幽谷にあり

ます。四季それぞれに美しく、心が洗われる思いがいたします。「うちまかせ」は高祖様の書かれた正法眼蔵の中のお言葉「ただわが身をも、心をも放ち忘れて、仏の家になげ入れ」る姿の意ですが、素直に、無条件に帰依することです。永平寺に参詣をして、ひとたびその素純清潔に接すると「浮世の塵」の根元である「我執」(煩惱)がたちどころになくなつて、ああ高祖様のおふところだということだけが有難く湧いてくるというのです。

太祖常済大師御詠歌 作詞 赤松月船老師

ひたすらにける願いはあらたかや

玉の台に 紫の雲

太祖様は母上の観音様への切なる願いによつて誕生なされたお方ですが、太祖様もまた「女人救済の願」を立てられました。その太祖様が開かれた大本山総持寺ですから、靈験いちじるしい、あらたかなご本山であります。

当初、石川県の門前町にありましたが、明治四十年に現在の鶴見ヶ丘に移りました。その伽藍の立ち並ぶ偉観を仰いで「玉の台に紫の雲」と讃えているのです。

私共も一仏両祖のみ教えを詠讃歌を通して学び、さらにそれを日常生活の中に実行してゆこうという「願」を持ち続けたいものです。



温泉寺

佐藤舜英

# 受検心得

1. 受検種目を間違えぬこと。
  2. 権正教導(二回目)以上の受検者は「詠題」を唱えることが出来る様にしておくこと。
  3. 「替節」もおろそかにせず、お唱え出来る様にしておくこと。
  4. 権中教導(四回目)からは「立行」が出来るように。
  5. 一教階毎に検定が厳しくなりますが、要は、どのくらい唱え込んでおるかを見る機会ですので、実力発揮、又今後の精進につながるべき好材料と心得て望んで欲しい。
- 以上

## お知らせ

### ◎特設検定会

県南・中央地区 八月二十七日(月) 九時受付  
秋田市秋田温泉「さとみ」

能代山本・阿仁 九月八日(土)

二ツ井町「ヘルスセンター」

鹿角・大館・北秋田 九月二十五日(月)

鹿角市花輪「百助旅館」

※ くわしくは、後日宗務所より各講に通知があります。

### ◎宗務庁主催梅花講検定会

十月三十日・三十一日 秋田市 蒼龍寺

※ 受検教階については宗報四月号参照のこと。

### ◎上級一般講習会(中教導以上)

九月十七日(月)～十九日(水)

会場 大本山 永平寺

定員 三〇〇名

受講費 一五、〇〇〇円

※ 申し込みは、菩提寺さんをおしてお早目に。ただし、定員になり次第切ります。

### ◎本庁主催 講習会(師範・詠範)

七月四日～六日(東北・北海道地区対象)

会場 北海道九五番 龍興寺

七月十八日～二十日(東北・関東地区対象)

会場 宮城県一六番 林香院

## 編集後記



△ 梅花流全国大会では、食中毒と言う思わぬハプニングでひと揺れしたが、何とか無事幕を閉じた。

△ 不幸にして食中毒になられた方々には、心からお見舞いを申し上げます。

△ さて、この大会に、大会役員として当県より出向いた十七人の師範たちは、大会兩日、駐車場係、受付係、整列係、法要登壇係とに別れて「魚の水を得たる」如く、チームワークよろしく立ち働き、大会円成の大きな力となった。

△ それもこれも、県内梅花先達の老師様方のキズナを若い者が受けついでだ好ましい姿に見える。

△ 「同行」も二号を迎えた。今回から、頼り甲斐のある助っ人、新田寺副住職の保坂春聴さんにお手伝をしていただき、この様な紙面が出来上った。

△ ここで一冊「仏教入門」の書をご紹介致します。身近な話題から説き明かし、どなたでも楽しく読めて、読み進むうちに、すなおに仏の教えがわかって来る本です。ものの見方、考え方がすなおになりそうな本を是非。佼成出版社発行の「森政弘の佛教入門」 定価九〇六円 柴田 生